

イベントレポート『2012 GT耐久東海シリーズ 第3戦』

開催日 2012年7月15日(日)

14:00 決勝スタート 17:00 チェッカー

天候 晴時々曇り

最高気温 29.4℃(14時)

場所 スパ西浦モーターパーク

参加台数 25台

2012年GT耐久東海シリーズ第3戦が、愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。

東海地方は梅雨が明けておらず、当日の天気予報は「曇り時々雨」で降水確率50%。しかし、レースが始まる昼過ぎには予報とは裏腹に晴れ渡り、真夏を思わせる陽気となった。各チームのドライバーとマシンは、暑さとも戦いながらのレースとなった。



■「1+2C」クラス(1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車のクローズドクラス)

今回の第3戦から、GT耐久は義務ピットインの時間が1分間短縮された。これに伴い、1Cクラスに該当する1000cc未満の車両は、1回の義務ピットインと2回のドライバー交代をすれば良くなった。しかし今回は「1+2C」クラスにエントリーした3台は全て2Cクラスの車両であったため、このルールが適用されるチームはいなかった。

開幕から2連勝の#41「DXLシーワンNチームシティ」に、新規参加の#43「東海YEG自動車倶楽部シティ」と#24「改瀬工業VTIシビック」の2台が挑み、計3台での戦いとなった。



■予選

予選1番手に付けたのは、今年初参加となる#43「東海YEG自動車倶楽部シティ」。タイムは1'09.601をマークする。

2番手には#41「DXLシーワンNチームシティ」が1'10.470で続き、#43のすぐ後ろのグリッド位置を確保する。

初参加の#24「改瀬工業VTIシビック」はコース完熟に時間を費やし、タイムは1'11.917にどどまる。



■序盤

1時間経過時点でも、#43「東海YEG自動車倶楽部シティ」が1位の座をキープする。周回数は47LAPをマーク。

2位にはトップから1周遅れで、#41「DXLシーワンNチームシティ」が続く。3位の#24「改瀬工業VTIシビック」は45LAPを走行し、中盤以降の巻き返しを狙う。

■終盤

2時間経過時点では79LAPの#24「改瀬工業VTIシビック」が1位に順位を上げてくる。トップは入れ替わったものの、2位はなおも#41「DXLシーワンNチームシティ」。77LAPで終盤での逆転勝利に望みをつなぐ。3位に順位を落とした#43「東海YEG自動車倶楽部シティ」も76LAPにつけており、ラスト1時間での巻き返しを狙う。

■最終結果

チェッカー間際まで2位に1LAPの差をつけていた#24「改瀬工業VTIシビック」であったが、終了5分前に黄旗追い越しを犯し、最終結果から1周減算のペナルティを受ける。

これにより2位を走行していた#41「DXLシーワンNチームシティ」に、122LAPの同一周回で並ばれるがわずかなアドバンテージがあったため、最終的には#24「改瀬工業VTIシビック」が1位となった。

2位となった#41「DXLシーワンNチームシティ」は、トップまでわずか26秒届かなかった。

114LAPを走行し3位でチェッカーを受けた#43「東海YEG自動車倶楽部シティ」は、再車検において最低重量不足が発覚したため、ノーポイントとなってしまった。

3戦連続表彰台の#41「DXLシーワンNチームシティ」以外は毎回顔ぶれが変わるこのクラス。終盤戦で#41号車のポイント争いの脅威となるチームが現れてくるのであろうか。



■3Cクラス(1501cc以上のNA車と、1201cc以上の過給機付き車のクローズドクラス)

11台のエントリーを集め、激戦となったこのクラス。車種を見ると、初参加のAE101レビンとN15パルサーのほか、シビック、スターレット、ミラージュ、インテグラ、アコード、プジョー106、BMW318等々と全てが違う車種であり、見る者を楽しませてくれる。

#28「爆笑アクセントBスターレット」が開幕から2連勝中で断然勢いに乗っている。勢いをそのままに3連勝となるのか、それとも連勝に待ったをかけるチームが現れるのか。

■予選

予選1位となったのは、#830「WM CLNシビック」。総合でも2位となる1'03.419の好タイムをマークし、最前列グリッドを獲得する。2番手には#52「ヒロエンタープライズDC2」が入り、タイムは1'04.809を記録する。

3番手には開幕3連勝を狙う#28「爆笑アクセントBスターレット」が1'04.999で続き、総合7位のポジションから決勝での巻き返しを狙う。

4位から9位までの6台は、それぞれのタイム差が約0.1秒ずつという超接近戦。4位に入った#36「剛式レーシング318is耐久号」の1'05.456を筆頭に、5位に1'05.508の#106「D&M プジョー106」、6位に1'05.614の#92「SWEET SIGNALパルサー」、7位に1'05.779の#33「ボディーショップ國盛WPミラージュ」、8位に1'05.970の#15「カムコ箱根仕様DXLレビン」、9位に1'06.188の#111「S'tecAE1ファジートレノ」と続く。

■序盤

1時間が経過したところでは、予選3位からスタートの#28「爆笑アクセントBスターレット」が逆転でトップに立つ。周回数は51LAPをマークする。予選1位だった#830「WM CLNシビック」は、この時点で2位になったものの、周回数はトップと同じ51LAPで、トップをピタリとマークする。

3番手には予選9位から大きく順位を上げてきた#111「S'tecAE1ファジートレノ」が入り、50LAPを走行。

4位の#106「D&M プジョー106」と5位の#52「ヒロエンタープライズDC2」も周回数は3位と同じ50LAPで、毎回ながらの混戦模様となる。

6位の#33「ボディーショップ國盛WPミラージュ」は49LAP、7位の#36「剛式レーシング318is耐久号」は48LAPと、中盤以降に表彰台への望みをつなぐ。

■終盤

2時間経過時点では、#830「WM CLNシビック」が再びトップの座に返り咲く。周回数は86周を記録する。

続く2位から5位までの4チームは85週の同一周回という大混戦。2位に#28「爆笑アクセントBスターレット」、3位に#106「D&M プジョー106」、4位に#52「ヒロエンタープライズDC2」、5位に#111「S'tecAE1ファジートレノ」というオーダー順となり、逆転優勝を懸けてラスト1時間に臨む。



6位の#33「ボディーショップ國盛WPミラージュ」と7位の#36「剛式レーシング318is耐久号」は83LAPで並び、表彰圏内である6位を目指しての戦いを繰り広げる。

■最終結果

終始トップ争いを繰り広げた#830「WM CLNシビック」と#28「爆笑アクセントBスターレット」。最後にトップチェッカーを受けたのは、#28「爆笑アクセントBスターレット」で開幕3連勝となった。終始接近戦を繰り広げた#830「WM CLNシビック」であったが、トップから遅れることわずか1.7秒で惜しくも2位となった。

3位争いは129LAPを走行した3チームによる戦いとなった。この争いを制したのは#111「S'tecAE1ファジートレノ」で、2戦連続での表彰台をGETした。

4位の#52「ヒロエンタープライズDC2」は3位から遅れることわずか10秒。また5位の#106「D&M プジョー106」は4位からわずか4秒遅れと、3Cクラスのレベルが非常に接近していることを物語る結果となった。

また表彰圏内となる6位も、126LAPを走り切った3チームによる僅差での争いとなった。この争いを制したのは前回リタイヤの悔しい結果から復活した、#33「ボディーショップ國盛WPミラージュ」であった。7位に終わった#36「剛式レーシング318is耐久号」は、チェッカー直前に犯したペナルティが痛かった。

今回苦しみながらも3連勝を飾った#28「爆笑アクセントBスターレット」。次回第4戦で優勝すれば、早々にシリーズ優勝が確定することになる。#28号車の爆笑を止めるチームは現れてくるのか。





■OPクラス(排気量区分無しオープンクラス)

今年から排気量区分の無くなったOPクラス。開幕前はシビック、インテグラあたりの車両が有利かと思われていたが、ふたを開けてみると開幕戦ではスターレット、第2戦ではシティが優勝し小排気量車の検討が目立つ。

さらに第3戦では常連チームのシビックやインテグラが揃って欠場し、今回も小排気量車にとっては追い風の展開。

入賞チームの顔ぶれが毎回大きく変わるこのクラス。シリーズポイント争いも非常に混沌としているが、今回頭一つ抜け出すチームは出てくるのか。

■予選

予選1位のタイムをマークしたのは、前回優勝で勢いにのる#110「DXLアライメント浜松シティー」。総合でもポールポジションとなる1'01.856をマークする。

2番手には今年初エントリーとなる#76「ヒロエンタープライズEG6」が1'03.498で続く。

3番手には雨の開幕戦で予選1位となるタイムをたたき出し、周囲をあっと言わせた#180「M. M. S. 180SX」が1'04.575で入ってくる。

4位には開幕戦優勝の#56「RS正和ナフティースターレット」が1'04.940で入り開幕戦以来の表彰台を目指す。

1'05.230で5位の#96「TeamKRS WM DL EG6」と、1'05.233で6位の#84「積志自動車通勤快適スィフト」は、今回揃ってマシンチェンジをしてきたチーム。ニューマシンで上位を目指す。

以下、7位に1'05.967で#2「NGRSレビン」、8位に1'06.088で#200「久興自動車マイマイMR2」と続く。



■序盤

ポールスタートの#110「DXLアライメント浜松シティー」は、スタートからどんどんと後続を引き離し、1時間時点では2位に2周差となる53LAPを走行する。

51LAPでの2番手は、EG6シビック同士の戦いとなる。2位に#96「TeamKRS WM DL EG6」、3位に#76「ヒロエンタープライズEG6」というオーダー順。

4位には今年初参加の#200「久興自動車マイマイMR2」が50LAPで続く。サーキットでは珍しいMR2はコース上でもひととき目立つが、4位というポジションでさらに注目は高まる。

5位から7位までの3チームは48LAPの同一周回での争い。5位に#22「NAHレーシングロードスター」、6位に#17「カムコ1.3改スイフト」、7位に#2「NGRSレビン」と続く。

■終盤

2時間が経過してもなお、#110「DXLアライメント浜松シティー」はトップを走行する。2位に4LAPの差をつける独走状態をキープ。

2番手には85LAPを走行した#200「久興自動車マイマイMR2」が続き、引き続き注目を浴び続ける。

3位の#96「TeamKRS WM DL EG6」は84LAP、4位の#76「ヒロエンタープライズEG6」は83LAPと、引き続き2台のEG6が接戦を繰り広げる。

5位には#2「NGRSレビン」が82LAPで、6位の#56「RS正和ナフティースターレット」は80LAP、7位の#22「NAHレーシングロードスター」は79LAPと、少しずつの差があるものの、残りはまだ1時間あるので順位がどう変わるかわからない。

■最終結果

ポールスタートから終始トップの座を守り続けた#110「DXLアライメント浜松シティー」が、前戦に続く優勝をものにした。周回数は135周で他チームを圧倒する速さであった。

2位以下は終始順位が入れ替わる展開であったが、最終的には129LAPを走り切った#96「TeamKRS WM DL EG6」が2位でチエッカーを受けた。

2位から5秒遅れの3位に入ったのは#56「RS正和ナフティースターレット」。前半に義務ピットを済ませる作戦に出たため、終盤に一気に順位を上げる形となり、開幕戦以来の表彰台をGETした。

4位となったのは#200「久興自動車マイマイMR2」で128LAPを走行。終盤まで3回目の義務ピットインを引っ張ったため、最後に少し順位を落としたが、MR2での4位入賞は周囲を驚かせた。

5位と6位は127LAPでの戦いとなったが、#76「ヒロエンタープライズEG6」が3秒差で#2「NGRSレビン」を抑えた。

今回も圧倒的な速さを見せた#110「DXLアライメント浜松シティー」がシリーズポイント争いで1位に立った。今回欠場したシビック、インテグラ勢が、第4戦以降に#110を抑えることが出来るのか。それともこのまま#110の独走が続くのか。



